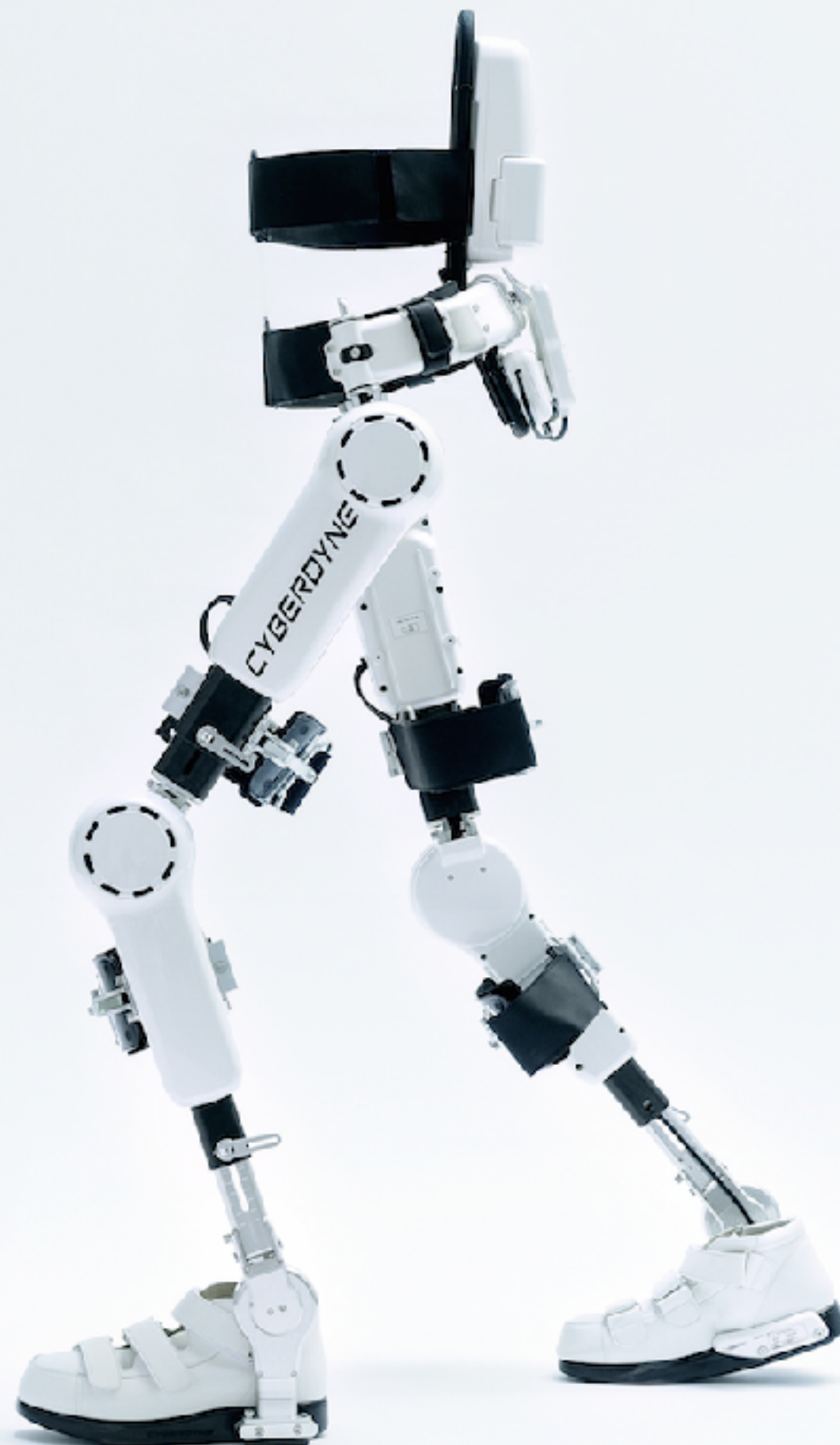


CYBERDYNE株式会社
2018年3月期
上期決算説明資料

2017年 11月14日



連結業績実績 - 前年同期比較

- ・売上高：レンタル台数増加等により27%増加
- ・赤字縮小：営業損益138M改善、経常損益70M改善

【2018年3月度 第2四半期：連結損益計算書】

単位：百万円

項目	FY2017 【Q1】	FY2017 【Q2】	FY2017 【上期】	FY2016 【上期】	増減額	コメント
売上高	353	408	761	601	160	レンタル売上増加 +110M HAL治療サービス増加 +37M
売上原価	111	125	236	215	21	
売上総利益	242	283	525	386	139	粗利率向上 (64.3%→69.0%)
研究開発費	199	195	394	428	-34	新製品の開発や臨床研究の注力 →下期に増加見込
その他販管費	354	334	687	652	35	租税公課+33M、株主総会費用+10M、その他 -8M
営業利益	-310	-246	-556	-694	138	
営業外収益	54	68	122	1,034	-912	受託研究 -158M →下期に増加見込 固定資産補助金の減少 (主に福島生産拠点等) -740M ※
営業外費用	1	5	7	850	-844	株式交付費用 (前年度一時費用) の減少 -96M 固定資産圧縮損の減少 (主に福島生産拠点等) -740M ※
経常利益	-257	-183	-440	-510	70	
当期純利益	-258	-184	-443	-515	72	

※ 昨年度の福島生産拠点等の固定資産に関連する営業外収益(補助金収入)と営業外損失(固定資産圧縮損)は損益インパクトなし

事業進捗のハイライトと現況



医療用HAL 世界展開

- 日本：適用拡大に向け脳卒中の医師主導治験が進行中(2016/9～)
- 米国：FDA再申請を行い(2017/6)、審査進行中
全米最大級のリハ病院グループ Brooks Rehabilitationと治療センター設立で合意(2017/11)
- 欧州：ドイツ公的医療保険に向けた手続き進行中。ポーランドで民間保険適用(2017/6)
- その他：サウジアラビアで医療機器承認取得し(2017/8)、初出荷(2017/10)

新製品 (新モデル)

- HAL腰タイプ 自立支援用：販売開始(2017/10)→高齢者などの体幹・下肢機能の維持向上へ
- HAL腰タイプ 作業支援用：防塵・防水対応の新モデル投入(2017/12)→屋外など利用範囲拡大

製品開発

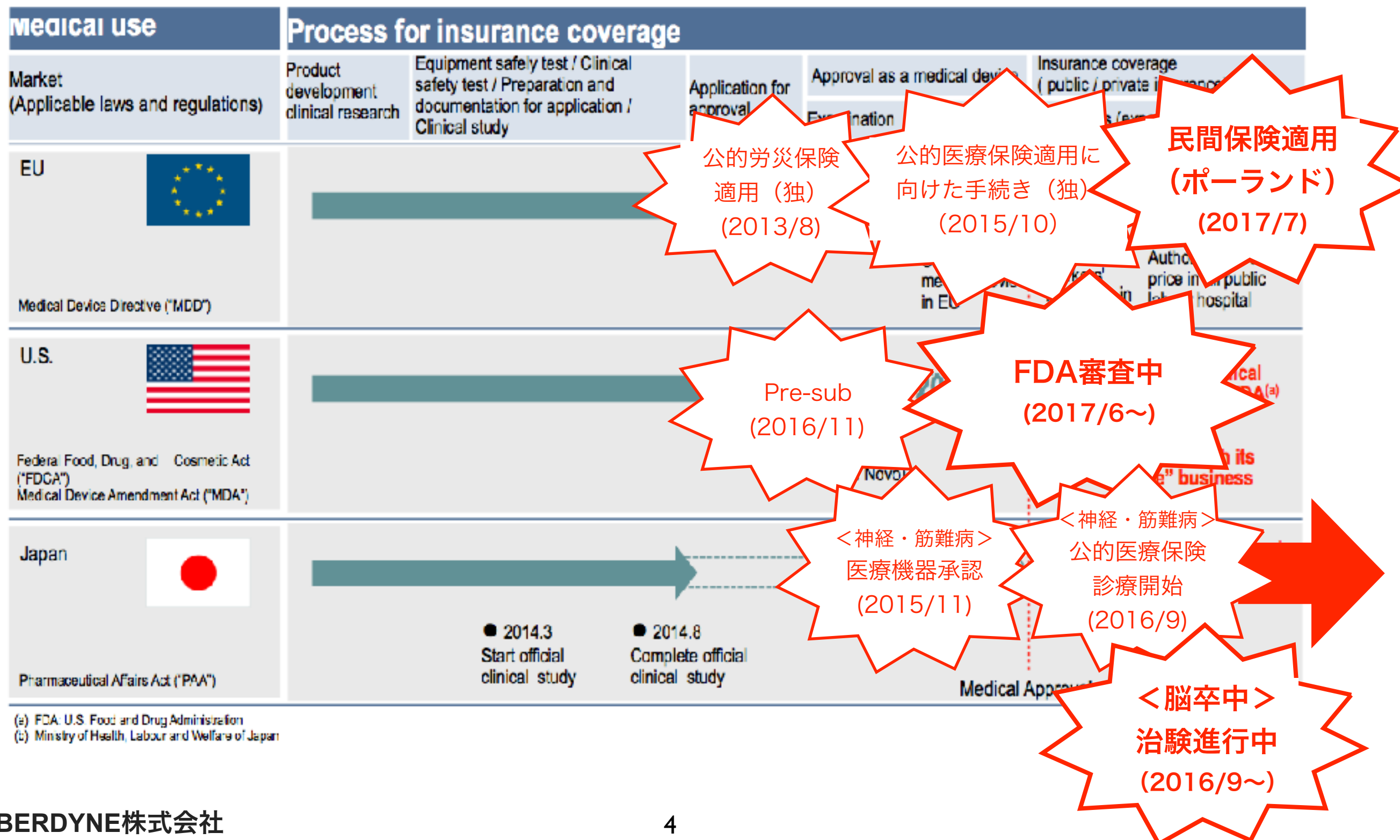
- HAL下肢タイプ(SSサイズ)：低身長への適用(100cm程度から利用可能に)
- サイバニックインターフェース：近々製品発表予定
- バイタルセンサー（動脈硬化・心電）：医療機器化へ準備中 →生活習慣病の予防ビジネスへ
- 清掃ロボ：高機能新モデル展開準備（大型商業施設やオフィスビル等に導入予定）

事業推進

- 民間保険：大同生命(HAL特約)、AIG(歩行機能向上促進プログラム)、損保ジャパン(包括連携協定)
- loH/IoT：通信・デバイスの合併会社 Cyberdyne Omni Networks設立(2017/8)
- 事業連携：サイバニクス技術を中心とした新産業創出連携体としてCEJの設立準備

医療機器認証、保険適用の現状

- CYBERDYNE aims to expand medical approval and insurance coverage of HAL in target areas - EU, US and Japan

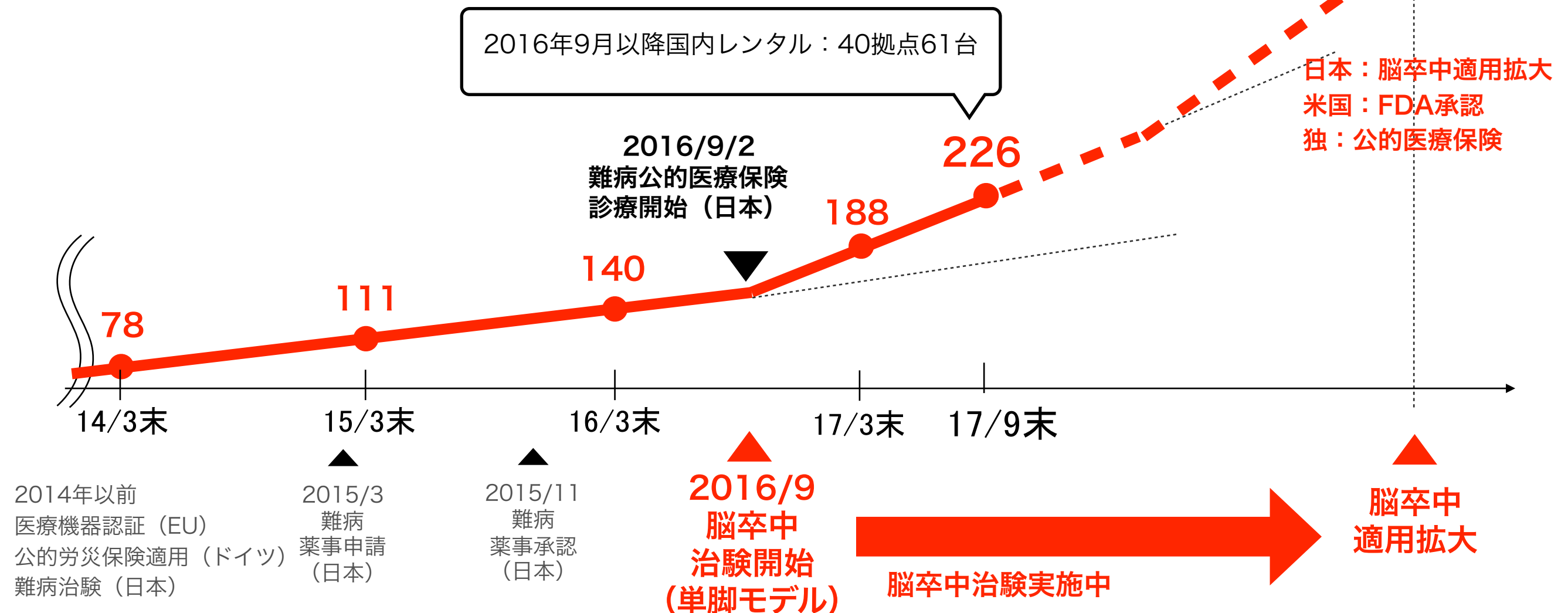


製品別稼働台数（医療用下肢タイプ）

国内施設で導入進展（約1年で40施設）

拠点形成も同時に進展

適用拡大に向けた脳卒中の治験が進行中（2016/9～）

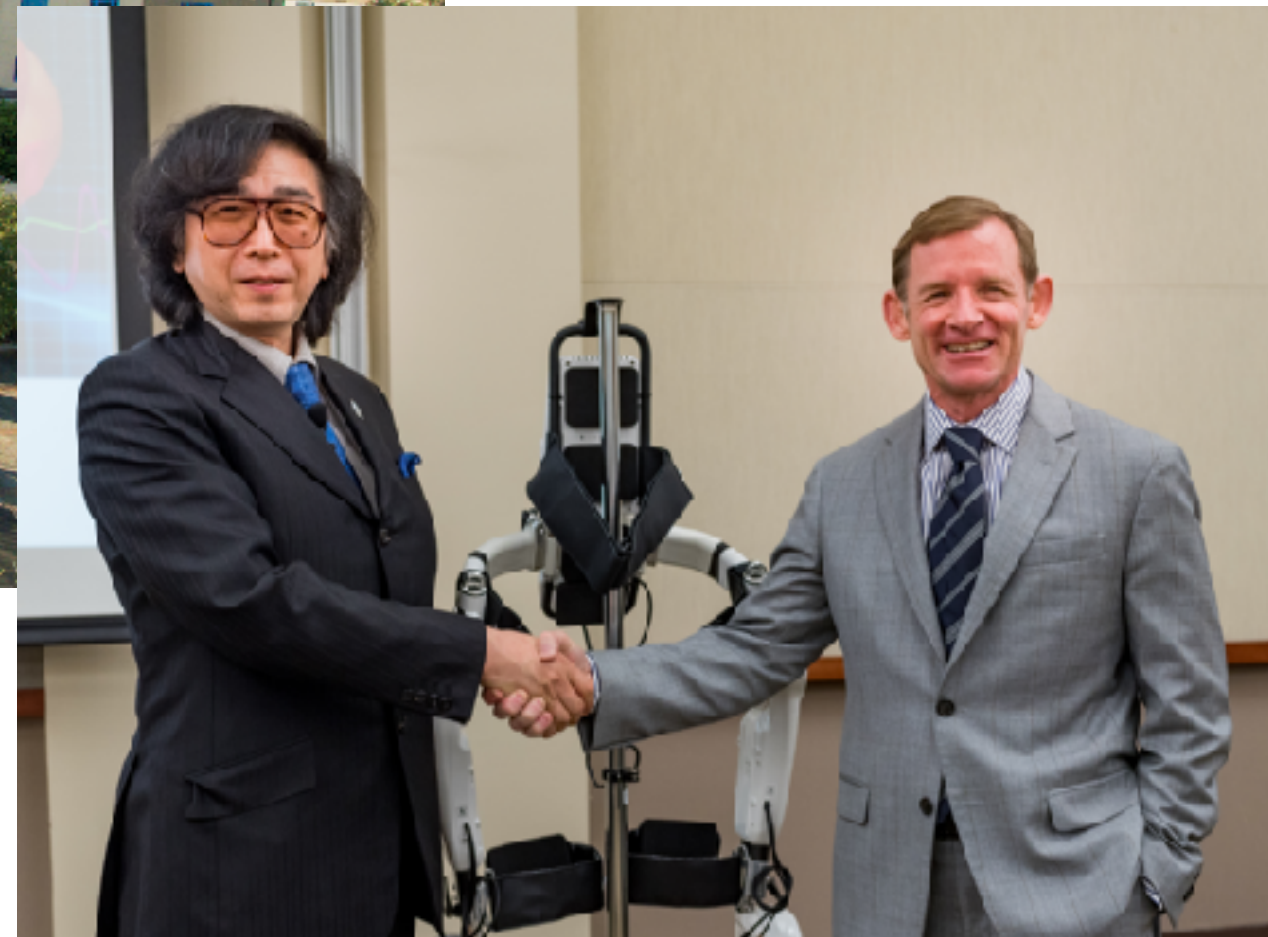


全米最大級のリハ病院グループBrooks RehabilitationとHALによるサイバニクス治療センター設立で合意 (2017/11)



BROOKS[®]
Rehabilitation

- グループ全体で年間4万5千人以上の患者数
- 全米最大級の入院リハ病院
- 32の外来クリニック（年間3万人以上の患者数）
- 脳卒中、脊髄損傷等の臨床研究センター



左：山海社長、右：スピーゲルPresident & COO (Brooks Rehabilitation)

世界初！

医療機関と民間保険*がHAL治療の保険適用に合意（2017/6）

*ワルシャワの医療機関Constance Careが大手保険会社WARTA社と契約（WARTA社の保険に加入する脊髄損傷患者を受け入れ）
ドイツ公的労災保険と同様、患者一人当たりユーロ換算で約3万ユーロ（約500ユーロ x 60回）をカバー



その他のエリア展開(サウジアラビア)



医療用HALがSFDA*¹より医療機器承認 (2017/8)

ビジネスパートナーのALJ病院に医療用HALを初出荷 (2017/10)

脊髄損傷後遺障害患者：年間新規1万3千人*² (日本の倍以上)



2017/3パートナーシップ調印式*³

*¹ サウジアラビア食品医薬品局

*² 2015年 サウジアラビア保健省サイトによる

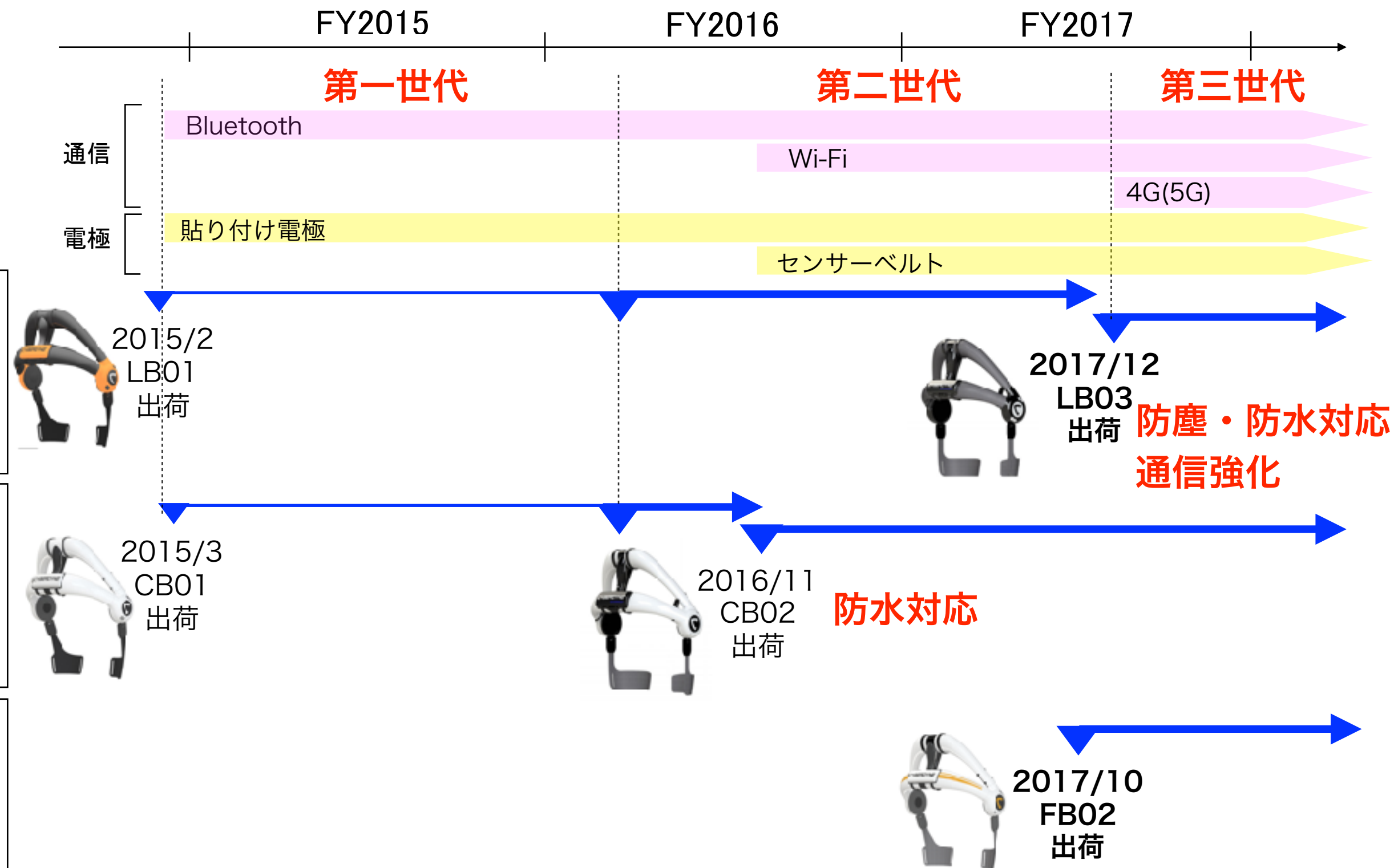


ALJ病院 (Facebookより引用)

*³ 左から、モハメッド・ジャミールALJ会長、ファキーフ経済企画大臣、山海社長

HAL腰タイプの新モデル展開

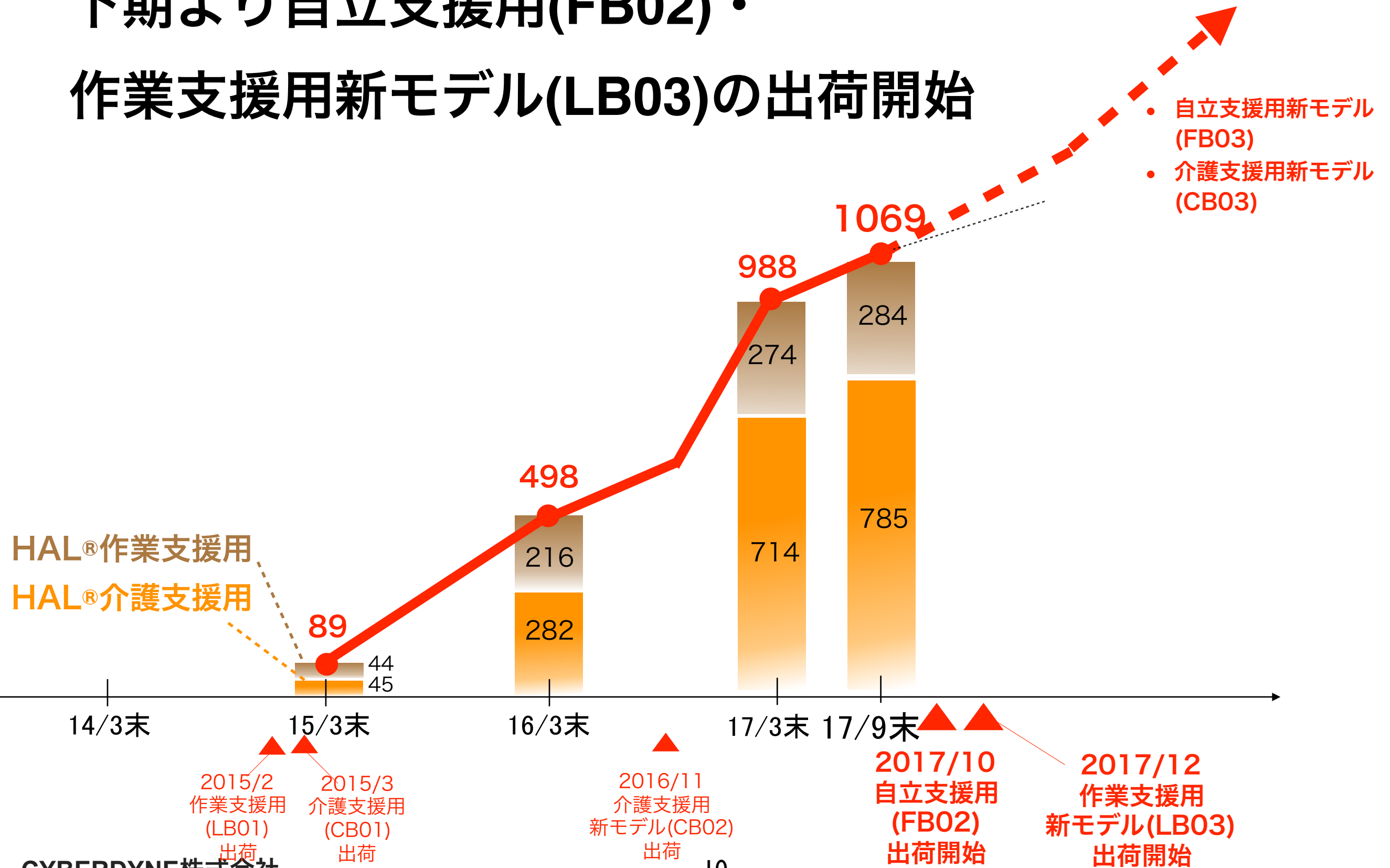
12月に第三世代の作業支援用(LB03)出荷開始



製品別稼働台数（腰タイプ）

下期より自立支援用(FB02)・

作業支援用新モデル(LB03)の出荷開始



HAL腰タイプ 自立支援用出荷開始 (2017/10)

足腰の弱った方などの体幹・下肢機能の維持向上を促進
介護する側も介護される側もサポート



- 従来のHALと同様に、装着者の生体電位信号を読み取り、思い通りの動作を実現
- 約3kgのコンパクト・軽量モデルで装着や操作が容易
- 装着して体幹動作や立ち座り動作を反復
→身体そのものの機能回復を促す
→HALを外した状態での自立度を高める期待



HAL腰タイプ作業支援用新モデル出荷開始 (2017/12)

防塵・防水対応により屋内外の様々な現場で利用可能に



- 防塵・防水対応
 - 雨天時や粉塵の多い建設現場などの屋外作業
 - 高湿の屋内作業
- 通信強化（屋内外全域をカバー）
 - IoT/IoH*によるネットワーク化



*IoH: Internet of Humans, IoT:Internet of Things

大同生命「HALプラス特約」発売開始 (2017/7)

HALを活用した難病治療を保障する業界初の保険商品

HAL治療に無料特約

大同生命 一時金100万円支給

大同生命保険は8 ロボットスーツ「HAL」
日、サイバーダインの「L」による治療の保障

サイバーダインの医療用HAL。ドイツでの試験

付き保険商品の取り扱いを7月に始めると発表。大同生命の医療保険「Mタイプ」に無料特約として付ける。筋シストロフィーなど難病にかかり、医療用HALによる治療を受けた場合、一時金として100万円を支給する。

HALはサイバーダインが開発したロボット

DAIDO 大同生命保険株式会社

「歩きたい」その意思を、最新技術と共に支える。

業界初

ロボットスーツ「HAL」を活用した難病治療への保障

HAL プラス特約

医療用HAL[®]（下肢タイプ）による治療を保障

保険料無料で付加可能

医療用「HAL」とは？
「サイバーダイン」は？

AIG HALによる歩行機能向上促進プログラム(2017/10)

AIGジャパンと連携して神奈川県内の脊損受傷小中高生に 「歩く」ことへの意欲増進の機会を提供



掲載日：2017年10月27日

神奈川県、AIGジャパン・ホールディングス株式会社、CYBERDYNE株式会社が連携して県内脊損受傷小中高生への歩行機能向上促進プログラムの開始！

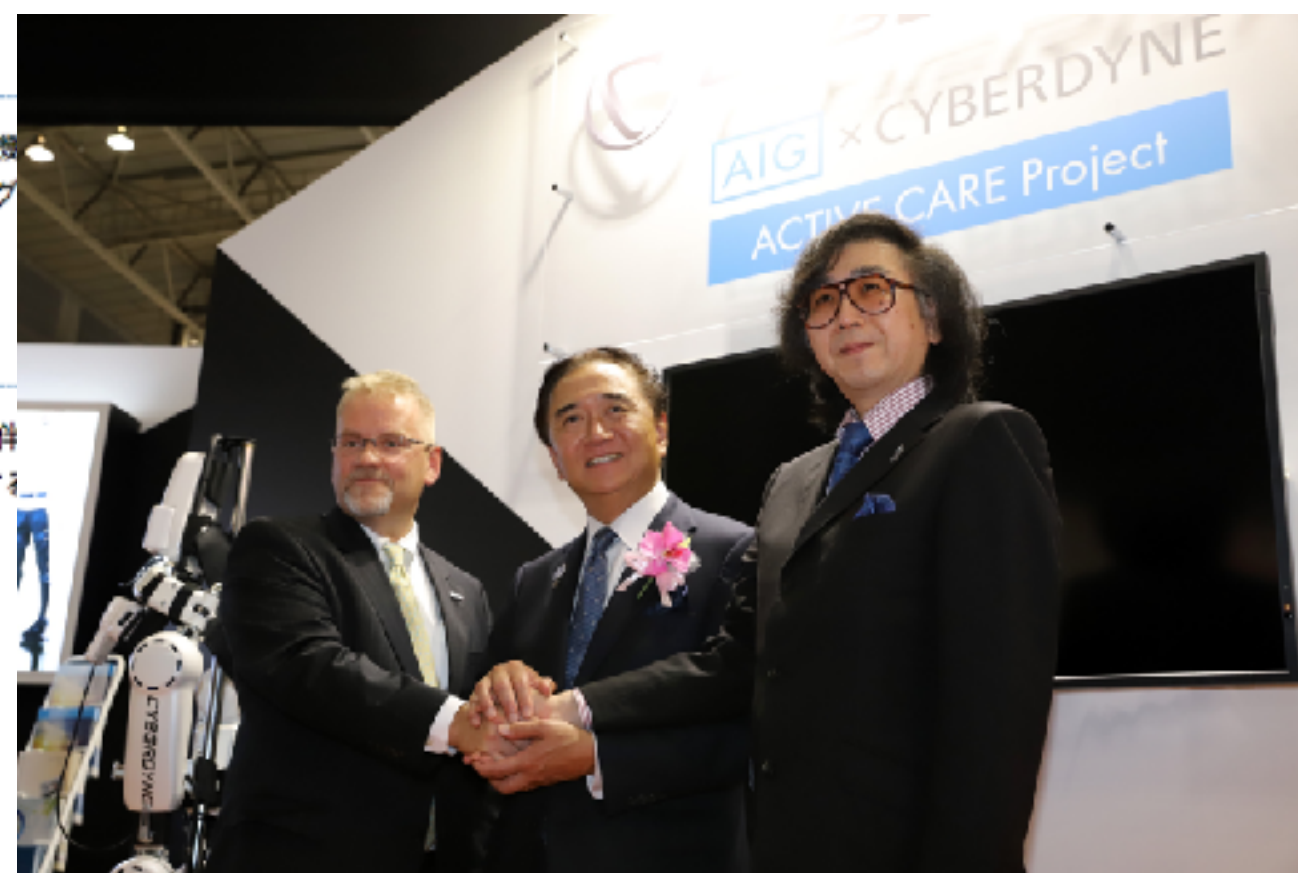
1 募集の概要

今般、両企業の社会貢献活動の一環として、神奈川県内の「外傷性脊髄損傷」に伴う下半身機能（名）を対象に、ロボットスーツHALを使った歩行機能向上促進を試行体験するトレーニング（期間約2ヶ月）を、以下のとおり実施することとなりましたので、お知らせします。

2 対象者

神奈川県に在住、もしくは県内の小・中・高校に通う、「外傷性脊髄損傷（不全麻痺）」に伴う生徒（6-18歳）、かつ、下記要件を満たす方から、先着50名を対象。（下記要件等に関する詳細は、CYBERDYNE株式会社の子会社で、本プログラムの実施施設）に要確認）

神奈川県ホームページより引用



損保ジャパン日本興亜と包括業務連携 (2017/10)

革新的サイバニクス技術とリスクファイナンスの融合による 健康で豊かな社会システムの構築へ

介護ロボ「HAL」普及を加速

損保ジャパン、サイバーダインと業務提携

損害保険ジャパン日本興亜がロボットスーツ「HAL」などを手掛ける筑波大発のベンチャー企業、サイバーダインと業務提携することが24日、分かった。損保ジャパンは同じグループ内に介護事業も抱えており、提携によりHALの介護現場での活用を図るほか、新たな保険商品の開発などを目指す。25日に正式に締結する。

HALは腰などに装着して使うロボットで、運動時に脳から筋肉に送られる微弱な信号を読み取り、動きをサポートする。介護をする側が腰に負担をかけることなく要介護者を抱きかかえることができるほか、足腰が弱った人などが装着すれば楽に立ち上がることができる。

まずは来年度中にも交通事故で下半身にけがを負った損保ジャパンの保険加入者に、サイバ

ーダインが運営するリハビリ施設を紹介するサービスを開始する予定。将来はけがを負った際に、HALをリハビリで使える特約など、保険商品の拡充も検討する。

HALは画期的な先進技術で注目を集めているが、介護現場での活用はまだ1000台程度にとどまっており、全国で介護施設

サイバーダインの支援用ロボットス

を展開するSOMPOホールディングス傘下の損保ジャパンと提携することでHALの普及にけた足掛かりとしたい考えだ

自立支援促す制度改革

高い先進技術を持つサイバーダインと、介護分野で大きな市場を持つSOMPOHDの損保ジャパンが業務提携することで、要介護者の機能回復に向けた取り組みの促進が期待される。現行の介護保険制度では要介護者の自立支援が進みにくい制度

も来年度の介護報酬改定で自立支援を促す仕組みの導入を目指している。

現行制度は、要介護度が重ほど事業者への介護報酬も増える仕組み。重い人ほどサービス提供の費用もかさむため、例えば、要介護3の人の場合、介護報酬の平均的な支給額は約



10/25 フジサンケイビジネスアイ

左：山海社長、右：西澤社長(損保ジャパン日本興亜)

Cyberdyne Omni Networks社設立(2017/8)

(サイバーダイン・オムニネットワークス社)

あらゆるヒトやものがインターネットでつながる IoH/IoT*に関する通信・デバイス事業

CYBERDYNE とコヴィア、IoH/IoT に関する通信・デバイス事業の合弁会社を設立
～ あらゆるヒトとモノがネットにつながった『Society 5.0』の実現へ ～

*Internet of Humans / Internet of Things
(ヒトのインターネット/モノのインターネット)

CYBERDYNE 株式会社(茨城県つくば市、代表取締役社長:山海嘉之、以下 CYBERDYNE 社)と株式会社コヴィア(神奈川県横浜市、代表取締役:神代敏彦、以下 コヴィア社)は、医療や介護や生活を中心としたサイバニクス分野において、あらゆるヒトやモノがインターネットでつながる IoH (Internet of Humans) 及び IoT (Internet of Things) に関する通信事業、通信デバイス提供及びこれに関連するサービス事業を目的とした合弁会社『CYBERDYNE Omni Networks 株式会社』(以下 サイバーダイン・オムニネット社)を設立することをお知らせいたします。サイバーダイン・オムニネット社は、今後 CYBERDYNE 社が進めるビッグデータのネットワーク化の中核的な役割を果たし、IoH/IoT に関する事業を総合的に医療や介護や生活の場面に展開してゆくことで、あらゆるヒトとモノがネットにつながった『Society 5.0』*1(超スマート社会)を実現してゆきます。



産業変革・社会変革を実現する世界戦略

世界からイノベーションのシーズが日本に集中するイノベーションのスパイラルアップ

好循環実現に向けて！

社会実装展開へ！

人と技術のテクノ・ピアサポート
Medical/Health Care

イノベーションのスパイラルアップ

- ・国内外の大学や産総研との連携
- ・中核・連携推進企業の経験と能力をフル活動した拠点化推進
- 協力企業群(TUV・UL(公認認証機関), 地域連携企業(600社以上))等と連携

国内、世界に様々な革新的医療機器を展開し、研究開発と新産業創出を一体的に展開

世界から！
シーズ集約

革新機器研究開発・国際認証・治験・社会実装
から人材育成までの一体化推進

CEJによる
新産業創出スパイラル

メディカル・エクセレンス・
ジャパン (新生MEJ)
注：サイバーダイン社もMEJメンバー

- ・国内、世界中から、
シーズと人材も集約
- ・連携受け入れ推進

国際認証取得支援
ISO13482,13485取得

ロボケアセンター
グループ

- ・住環境
- ・生活リハ
- ・訪問看護

本書には、当社および当社グループに関連する見通し、計画、目標などの将来に関する記述がなされています。これらの記述は、当社が本書作成時点において入手した情報に基づきなされたものであり、当社が何らの検証を行っておらず、また内容を保証するものではない公開情報を含んでいます。当社はこれらの記述を更新する義務を負っておりません。

当社および当社グループに関連する見通し、計画、目標は、当社が合理的と考える前提のもとに記述がなされていますが、これらの将来に関する記述は、当社の将来の業績を保証するものではなく、これらの記述において表現または暗示されている当社の将来の結果、業績、成果、財政状態と著しく異なる実際の結果、業績、成果、財政状態をもたらす可能性のある、既知および未知のリスク、不確実性、その他あらゆる要素を含んでいます。

CYBERDYNE株式会社